

## 基幹共同研究 1

### ネットワーク形成研究班の研究経過と成果

#### 1 班の組織化

21 世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の 5 年間の研究成果を継承発展させるために非文字資料研究センターが設立され、3 年間の研究を展開してきた。COE の目標は世界的な研究拠点を作ることであり、本プログラムもその目標にむかって事業を展開し、大きな成果を挙げた。非文字資料研究センターは、その成果の上に立って、世界的研究拠点としての活動を具体化することが最大の課題となった。非文字資料研究を一つの大学内の研究としてではなく、広く日本全体の研究者と連携し、さらに世界各地の非文字資料研究者とネットワークを形成して、新たな研究水準を創り出すことが構想された。そのことは言うは易いが、実行することは難しい課題であった。世界的規模での研究機関・研究者ネットワーク形成のための方法を検討しなければならない。非文字資料研究センターの第一期研究のなかの基幹研究として設定された「非文字資料研究ネットワーク形成研究班」は、新しい研究方式としてのネットワーク形成の方法を研究し、実際に実践を試みることを課題に組織された。

班発足の際に作成された研究計画書には以下のように、目標と実施計画が記されている。

（目的）非文字資料研究センターの最重要課題である、センターを世界的非文字資料研究センターにするためのネットワーク形成の方策を研究する。そのために世界の非文字資料研究の現水準を調査研究し、それを基礎に最終的には世界的なネットワークを完成させる。

（実施計画）3 年計画である。初年度から 2 年度目にかけては、先ず本センターの活動内容に対応する世界各地の研究機関・研究者の情報を収集すると共に、研究の現水準を把握して、世界的な非文字資料研究の状況を明確にする。併せてネットワーク形成方法の検討を進める。2 年度目から 3 年度にかけて、世界各地の研究機関・研究者とネットワークを形成し、非文字資料研究に関する情報を収集し、発信する。

班員として参加したのは大里浩秋、金貞我、的場昭弘、福田アジオの 4 名で、最初の 2 年間は金貞我が代表を務めた。3 年目は福田アジオが代表となった。また 2 年目から新たに小熊誠が班員として参加した。さらに研究を進展させるために、研究協力者として富澤達三、中町泰子の二人を依頼し、研究活動に積極的に従事して貰った。

## 2 班の活動と成果

班の活動は、基本的には研究会で課題の検討を行うことを中心に進められた。ネットワーク形成に関連する具体例として、研究者を世界的に結びつけ、情報の共有化が試みられている美術史におけるフォーラムが紹介された。また世界的な共同研究が果たして可能かどうかの検討も行われ、その可能性を追求するために具体的な研究課題に絞って共同研究組織を2年目以降に立ち上げることも計画された。しかし、何をテーマにして組織するかという問題で明確な方向を獲得できず、また班の割り当て予算では海外からの参加を求める条件を欠いていることも明らかなため、その組織化を断念した。

ネットワーク形成のための基礎的な情報を収集することの必要性も班発足時から認識されていたが、2年目以降にそれを具体化し、非文字資料研究機関情報及び非文字資料研究者情報を班として収集し、データベース化する作業を進めた。情報収集対象は日本のみでなく、当然のことながら世界中の機関と研究者を対象としたが、非文字資料研究という独自の枠組みに対応する機関や研究者を把握することが難しく、データベース化するだけの情報量を集積することはできなかった。今回公表するのは、断片的な海外の情報を除外し、日本における非文字資料研究機関および研究者の情報である。それも十分ではない。非文字資料という新しい枠組みに対応していることを表明している研究機関はないし、非文字資料研究を行っていると自覚する研究者もほとんどいないであろう。あくまでも私たちが非文字資料研究機関、研究者と認定したものである。その場合、非文字資料研究は、21世紀COEプログラムからの継承によって、図像、身体技法、環境・景観の三つとした。

3年間の班の研究会や非文字資料研究情報の収集活動のなかから獲得した知見、考察を各人の責任でレポートにまとめ掲載し、班の研究成果とすることにした。4人がここに原稿を寄せている。いずれも世界的なネットワーク形成が如何に困難かを認識した結果として書かれている。世界的ネットワーク形成は大きな目標であり、非文字資料研究センターの中心課題である。そのための第一歩を踏み出したが、達成までには遥かに遠い道のりがあることを知ったと言えよう。

## 3 国際学術交流

金貞我、的場昭弘、福田アジオの3名は、2009年3月ドイツのハイデルベルク大学クラスター、フランスの国立高等研究院、およびリヨン第三大学を訪問して、研究機関としての提携あるいは交流について協議を行った。その結果、ハイデルベルク大学クラスター、フランス国立高等研究院との間で研究交流に関する覚書交換ができ、2010年度から学術交流が始まった。これもネットワーク形成班の一つの成果と言って良いであろう。また、2009年1月大里浩秋、金貞我、福田アジオおよびセンター事務局長の田上繁で韓国を訪れ、韓国国立民俗博物館、漢陽大学、延世大学、高麗大学を訪れ、それぞれと研究交流について協議をした。

(福田アジオ)